

地域における再生可能エネルギーの利用技術を通して 持続可能な食料システムを考える

近年、日本の農林水産業が、大規模自然災害・地球温暖化、生産者の減少等の生産基盤の脆弱化・地域コミュニティの衰退、新型コロナを契機とした生産・消費の変化など、多くの課題に直面していること、また、SDGs や環境を重視する国内外の動きが加速していくと見込まれることなどから、農林水産省では、持続可能な食料システムを構築するため、2010年5月に食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」を策定しました。これは、農業の成長産業化を促進するための産業政策と、農業農村の有する多面的機能の維持・発揮を促進するための地域政策を車の両輪とすることが謳われている「食料・農業・農村基本計画」の目指す方向だと思われます。

最近では、2021年11月に英国グラスゴーで開催された COP26において、世界の気温を産業革命前から1.5°Cの上昇に抑えるよう努力することが正式に合意されました。この目標を達成するためには、「みどりの食料システム戦略」で示された方向に向かって、私たちに何ができるかを考えるところから出発することが大事と考えます。

今回は、その手始めとして、農業分野から排出されるモミガラや家畜排せつ物を"地域資源"と考え、その有効利用と地域循環を目指した取り組みと、農村における再生可能エネルギーの利用技術が地域の活性化に果たす役割についてセミナーを開催します。

NPO法人近畿アグリハイテク 理事長 深見 治一（京大先端科学名誉教授）

■講演

1. 地域資源としてのモミガラの有効利用

①もみ殻から広がる可能性を求めて 株式会社トロムソ 代表取締役社長 上杉正章氏

②田んぼ産エコ燃料「モミ炭郎」の製造と利用

有限会社福江営農 取締役部長 後藤純二氏

2. 家畜排せつ物のメタン発酵による発電と消化液の地域利用（沖縄県八重瀬町の取り組み）

畜産環境整備機構堆肥舎等長寿命化推進委員・元中央畜産会家畜排せつ物利活用
推進事業企画検討委員 西村和彦氏

3. 農家が食料もエネルギーも作る社会

日本協同組合連携機構 客員研究員 和泉真理氏

■日時： 2022年2月16日（水）13:30～16:10

■方法： Zoom による Web 開催

■参加費： 無料（会員以外の方も参加可能です）

■主催： 農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課産学連携室

NPO法人近畿アグリハイテク （公社）農林水産・食品産業技術振興協会

※本セミナーは、農林水産省の実施する委託事業「『知』の集積による産学連携支援事業」の一環として実施するものです。

※京都府に、新型コロナウイルス「蔓延防止等重点措置」が適用されたため、Web開催のみとします。

お申し込みいただいた方には接続するURLをお送りします。お申し込みはメール等でお願います。

Web開催のみになりましたので、全員必ずメールアドレスをお知らせ下さい。

問い合わせ・申込先

NPO法人近畿アグリハイテク

〒606-0805 京都市左京区下鴨森本町15 (財)生産開発科学研究所内

TEL/FAX 075-711-1248 e-mail:office@kinkiagri.or.jp

申込み

講演会参加をご希望される方は、お名前・ご連絡先等必要事項を記入のうえ、郵送、ファックスまたはメールにより、**2月9日(水)必着**で上記事務局宛お送り下さい。

Web開催のみになりましたので、必ずメールアドレスをお知らせ下さい。

ふりがな お名前	ご連絡先 メールアドレス(必須)	所属(団体名)又は 住所(市町村名まで結構です)

※お申し込みに係る個人情報につきましては、本講演会以外では使用いたしません。